「あれはどうなつた」災害復舊は？合併問題は？徴税成績は？村民としては聞きたい、知りたいことが山程ある。

聞いた後は「そしてどうなるのか」と更に反問したいのである。

石川前村長時代からの懸案事項を新村長はどう処理していくだろうか。いま村長交替の時期をとらえて、廣報はこうした問題に焦点を合せて、整理して見たいと思うのである。勿論、問題によつては見事解決した例も少なくない、八年橋と松川護岸、石川前村長の在任時代必死の努力が次々と実を結びつゝあるのゝ多い。これらを多とし、又新村長にこれからのぞみをたくして二、三の問題を点描して見ることにする　文責K

①災害は復旧したか

災害が復旧しないうちに、次の災害がやって来る仕末で、何年度災害と区別しなければ、当局者でも頭が混乱する仕末。今年も又災害シーズンがすでに来ている。日本国中何処を抽出して見たとて同様な有様で独り沢内だけの現象ではない。さて災害関係のうち農業施設の災害ならびにその復旧ぶりを拝見しよう。

三〇、三一年度、安ヶ沢、猿橋、高下、下の沢の畑首工、金額にして合計約四九〇万円許りはすでに完成、残る高下上、太田、鍵沢、分沢新町の各水路、七内川畑首工は、繰越分も含まっているが、金額にして二一七万円は六月中旬完成予定、県営の代工工事三七二万円もすぐ完成する。従って農業施設関係はこれで全部完了の成績、総額一、〇一四万円が投入された。

建設省関係の査定額二、四〇〇万円の内訳中、八年橋五五五万円内の沢橋五四万円、七ツ釜、弥一郎橋は完成、松川護岸四三五万円下の沢護岸六二万円は六月中旬完成予定総額一、一三〇万円残る要望個所として護岸では高下五万円、下の沢一九八万円、松川六五五万円、七内川および鍵沢橋五七〇万円新山橋六七万円は三十二年度内には是非完成したい意気込みで関係方面へ申請しており、すでに七四〇万円の予算はついた。

他に三二年度に於ては村単独工事として一五〇万の起債で、村道内の各橋十六橋も着々進んでおり村道の維持費三五万円も決定、これで災害は全部跡形もなくなる勘定である。石川村政は災害、冷害と息つくひまなく取組んでこられ今まさに実を結ぶところである。本当に石川さん御苦労様でしたと申上げねばならない。それにしても次々とやって来る災害の眼は県して何処をねらっているか、ゆめゆめ油断はなりません。

②合併は悲観的か

ダム問題が解決したら、合併も進捗するという考え方が、沢内は勿論、湯田側にもあった。先般ダム補償の妥結後、村長が湯田村長に座談の折「ダムも解決したし今度は本気で合併のことを考えてもらいたい」と話したところ「解決どころか、これからが始まりですよ」という返事だった。個々の補償の問題、転住、生業の援助、公共施設の移転整備、まさに山積ざる問題はこれからといえば正に其の通りで、御同情申上げる許りだ。

然も先般阿部知事が「未合併町村にこれ以上追い打ちをかけない」という談話を発表して、帯しげきし議会を、県側の考え方の不統一を見せたり、西和賀地区として最も熱心で頼りになると思われた山田主事が変って仕舞われたり、悲観材料が全く多い。然し深沢村長は、県の強力な、あっせんと、沢内側の盛り上る与論の力とをもって、知事勧告時期ぎりぎりの日を迎えた湯田側へ働きかけて見る、どこまでも希望をすてないと語っている。

③冷害對策がどうなつてどうする

三十一年冷害については当時、応急策として、救農土木をもってくる。再生産資金の借入、薪炭原木の払下げ等各方面への陳情が効を奏して、再生産資金として四百万円の借入、薪炭原木の払下げも受けた。たゞ期待した救農土木がとれなかったのは残念だったが、土地、牧野の改良事業をもってくる。

④心配いらぬか病院関係

深沢村長の率直な言葉を御伝えしよう「まあ、よい先生がようやく揃ってくれて安心しているわけなんだが、気懸りなのは川舟診療所だ。最近のうちには適任者に来ていただく目星もないわけではない。只年間どうしても五、六十万円の赤字を生むんで困っている。一般会計よりの繰入れが年々増大する一方で、五百何万円から村税から二百万も繰入れるということはどうしても健全財政じゃないんでね。どうしても川舟にはいゝ先生に居ていただいて、患者の信頼を繋ぎ増収を図りたいと考えている。

いままでは医大当局と完全に緊密とはいえなかったが徐々に信頼を得つゝあるので今後せんせい方の御招介にはそつがないようにいくだろうと期待しているわけだ」というわけで、よい先生、よい設備、治療関係は勿論、保健婦の活動によって予防医学という面を手を伸して村の健康管理の万全を期するという、是非そう願いたいものである。

⑤学校關係では

と水を向けると「何も問題ないじゃないすか」と深沢村長は答える。貝沢小も、しようしやな姿で完成した、部落の融和もとれて平和な運動会がこの間行われた許り。太田教育長もそばにいて、「冬季分校も心配なく開校出来るし」と口添えする。

豊岡問題は一体どうなるんですよ・・・・・・・ふれないでもがの事えふれて見る。一瞬村長は苦渋な顔して、「其本的には議会の決議で法的にも済んだことですよ」と突っぱなして「それならなぜ議会がくどくどと前村長を追求したのか了解に苦しむが」と畳みかけたのに対し「石川さんが自分の政治責任で解決すると附帯事項を附したことに始まるんでしょうね」と逃げて「然し誰の責任でも村のためになることなら私も豊岡と話合ってメドをつける積りだ」ときっぱり言う。

小説風に書けば右の通りで、至極春風たい蕩というところ

⑥職員の採用について

「公募しておき乍ら、採用でもなければ不採用の通知なしの尻切れトンボで全くわけのわからん結末だった」と一受験者の弁、「現在六ケ月の試傭期間で臨時雇傭されているものがいるが、本採用はそうした方が優先的になるものと思う」と村長が語っており、今後も職員採用の必要があれば民主的な選考機関を作って公明正大な採用方法をとっていきたい、とは今後の方針と承知した。

⑦滞納整理について

納税意欲の昂揚文字で書けば大変聞きいい言葉なのだが、税金を進んで納めに来る人は全く表彰に価する様な昨今の思潮である。特に若干のトラブルの後をうけた財務行政はいまだ苦難の消えいってても過言でない実状である。

役場吏員が一戸一戸訪問して、徴税して歩くことは決して常態ではない。これについて村長は「信頼の於ける財務組織の確立、納税組合結成の奨励」育成をあげている。

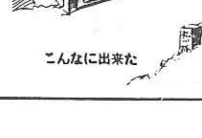
湯田は九二%の完納率という。これについては納税組合の育成以外にない、高率の報償制、皆もう運動などによって成績をあげたいとは村長の所信である。

⑧これから

以上は前村長時代からの懸案事項「あれはどうなった」のあらましである。次号からの広報紙からはこうした項目での記事は暫く必要がなくなることが本当は望ましいのである。

深沢村長はこれらの問題の早期解決に異常な努力を傾けようとしている。

これにプラスして独自の政策も織り込まれて、いわゆる深沢村政の骨格が出来上る筈である。


こんなに出来た

5月の議会

信頼の政治と外交
新村長、所信を語る

臨時村議会は五月十六日午前十時より会議室にて行なわれ深沢村長より信頼の政治、信頼の外交を押し進めたい旨の挨拶があり、議案を提出して助役に佐々木吉男（前農協専務）氏を監査委員に赤石富久平氏をそれぞれ選任、同一時三十分閉会した。

深沢村長の挨拶要旨次のとおり。

村民の皆さんの御協力を得て今回村長に就任いたしました、果してこの重責を担い得るかどうか？村民の皆さんの絶大な御協力を得て最大の努力をして行きたい。施政方針を述べなければならない所ですが、就任早々であり具体的財政の検討もいたしておりませんので詳細についてお示し出来ないことを残念に思っている。それで今日は私の心持ちと言うようなものを少し述べてみたい。

私は村政の進展を阻んでいるものとして次のことを申し述べてみたい。

—派ばつの解消—

先ず第一点として取り上げることとは一切の無駄な派ばつの抗争を止めることである。そう言う派ばつがもしないとすれば幸いなことであるが少しでも一方に片寄ることがあるとすればいかんなことでありその解消に努力すべきであると思う。

—各種機関の協力—

役場、教育委員会、農協等の公的機関の一体性がないことは村政にとって非常なマイナスである。こんなことはこの種機関の綜合的な協力体制の下に強力な村政の推進を期待いたしたい。

—信頼の政治—

第三点として取り上げたいことは昨今村民は村政に対して信頼がないことである。当局に対する又は議会に対する不信頼と言うものは円滑なる村政の運営が期待できない大きな要素であると思う。固い言葉で言えば「倫理性」の欠如とでも言うべきものである。これは私の懸念に過ぎないとすれば幸いなことであるが村政に対して道義的なものが余々ないと言うように村民が考えているとすればこれは村政の運営が成り立たない。

万々の問題について特に倫理性と言うものを強調し、村民の信頼ある政治を行うべきものと考える。

—信頼の外交—

第四点としては以上申し述べたことを含んで外交的に十分な体制を持っていなかったと思う。今後は村内の体制はもちろんのこと、総力を持って外交援渉に最大の重点をおいて行く考えで進めて行きたいと思う。

要約すれば以上の四点が明るい村政の進展をはゞんでいる要素ではないかと思いこの解消に努力いたしたいと考えている。

信頼の政治、信頼の外交、これが私のスローガンである。今後四年間私は円満なる村政の推進のためにこん心の努力をいたすつもりです。村民の皆さんの熱意ある御協力をお願いして私のあいさつとしたい。

最後に六月の定例議会には予算とにらみ合わせて具体的な方針、方法等についてみなさんに御相談申し上げたいと考えている。

提出議案

第1号	助役選任について
第2号	監査委員選任について
第3号	昭和32年度沢内村才入才出第2次追加更正予算
第4号	沢内村消防団条例の1部改正をする条例設定について

議案審議

一号、二号について村長より、三号四号について深沢主事より提案理由の説明があった。

一号、二号については助役に佐々木吉男氏が最適任である旨、又監査委員には赤石富久平氏が最適任であるとの説明があり、是非御承認されたい旨を発言、つゞいて三号については例年行って来た湯田沢内の消防演習を今年も行うことになりその必要経費を予算化したものである。

第四号については消防団並に消防団員について任命権者が表彰を行い得るように条例の改正をしたものとの説明あり

提案理由の説明のあと休憩し、午後二時より再会原案どおり各議案について万場の拍手のうちに可決確定したものである。

緊急質問

こゝで議案審議に入ろうとする所、北島議員より緊急質問あり

北島議員　①派ばつ抗争の解消をとり上げたことは誠に結こうなことである。ミイラとりがミイラにならないように本日の門出をもって最後まで進めてもらいたい。

②各種機関の緊密な協力、これももっともなことであります。これは各機関が十分なる機能を発揮できるように上部だけの結びつき（例えば村長と組合長、専務と村長教育長と村長）に終ることのないよう、下部の者の十分な協力体制を整えなければならない。

③およそ信頼されない政治と言うものはどこかに欠点があるからだと思う。これはすべてに通じて言えることであるが深沢村長がこれを信頼の政治の一本にしぼった所に意義を見い出すのであり、この点についても十分なる努力を払われるよう希望したい。

④第四点に外部の援しよう術を取り上げているがたゞ私は村の発展と言う美名にかくれて自分がひやくするための外交がなされないようにしてもらいたい。一人の者がのびるために村の財政が食われることがあってはならないと思う。

そう言う行き方でなしに村政が第一義的にならないように御努力を願いたい。

最後にもう一つふれておきたいことは町村合併の問題であるが、湯田ダムの補償問題も解決したようであるし、これに対する村長の考えを聞きたいと思う。

深沢村長、御質問の面もあるが大部分は私に対する進言、御忠告のようですので今後できるだけそのように努力する覚悟であることをお答えします。

町村合併については既定の方針に従って努力いたすつもりです。

学校巡回行う

教育委員会ではかねて、各小学校を巡回する予定を進めていたがこのほど二日間にわたって行った。これは主として屋根の修繕をする個所とかいろいろ壊れている所を見るもので大工さんと一緒に廻ったものであるが、このおゝよその見積りが間もなく作られる予定である。

事業計画など決める
澤内分校振興會

昭和三十二年度沢内分校第一回振興会総会は五月二十二日（木）午前十一時から開かれた。出席者は石川包前振興会長以下十七名、議長選出の後議事に入り、昨年度決算報告並に本年度予算案を審議し役員改選に移り、次の通り決定した。尚、副会長は従前四名であったのが、吉田代議氏から五名案が提案可決された。会長＝石川包氏（再選）副会長＝太田祖敬教育長、松川忠氏、佐藤寿太郎氏、佐々木義吉氏、田中助右エ門氏。ついで本年度の事業計画の項では、堀井分校主任から

イ、村内中学校招待野球、排球大会

ロ、分校運動会

ハ、文化祭

の説明があり、これが承認され、行事の実施に就いては後に準備委員会を設けて詳細を検討する事になった。其の他の項では、野中慶太郎貝沢中学校長から進学問題との関連に於いて、普通教科の充実を計って欲しい旨の要望があり、高橋主事、堀井主任の説明があって閉会、休憩に入った。

この後開かれた校舎増築期成同盟会では、高橋主事の現在までの経過報告があり、議長選出の後役員を一部変更（会長＝深沢晟雄氏）副会長＝佐々木吉男氏、顧問＝石川包氏）し、議事に入った。

議事は校舎増築実施に就いて

イ、新校舎の位置決定

ロ、寄付募集（約十五万円）実施幹事四二名選出

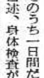
ハ、敷地の正式決定を計る

の三点が決議され閉会した。

尚、新校舎の設計は、北上市の渡辺氏に教育委員会を通じて委託された。

貸出し圖書について

社教の貸出し図書を借りている人は早く返して下さい。たくさんの人が読めるように一ケ所にとどめないで下さい。



自衛隊募集について

今防衛庁で自衛隊の志願募集を行なっているようですがその募集要項をお知らせ下さい（泉沢S生）

初任給は六千円

先ず応募できる資格は満一八才から二五才未満の人で学歴は中学校卒業程度となっています。

試験は第一回目は七月一日より七月一五日までのうち一日間だけ簡単な筆記、口述、身体検査が行われます。採用人員は一等陸士約一万一千四百名、二等海士約八百名、二等空士約五百名となっており入隊はだいたい九月ごろの予定です待遇は衣食を支給し初任給は六千円で逐次昇給します。締切は六月一〇日です。詳細は役場に問い合わせて下さい。